第3回日野川河川整備アドバイザー会議 議事録

開催日時：令和7年2月28日（金）

13時30分～15時00分

開催場所：日野川河川事務所（Web 併用）

1. 開会

2. 日野川河川整備アドバイザー会議の規約改定

意見なし。（即日規約改正）

3. 審議事項（日野川水系自然再生計画の策定に向けて）

（H委員） 自然再生の目標について、コアジサシの繁殖も目標に入れていただきたい。鳥類は環境が悪くなると別のところに移動するだけなので、魚類と並べて目標にするのは苦しいところもあるが、野鳥の会ではコアジサシの保全に取り組んでおり、野鳥の会と連携する形の自然再生計画になれば、野鳥の会としても活動しやすく、自然再生と連携した活動もできると思う。

（A委員） （前の意見に関連して）自然再生計画策定の準備段階において、日野川・法勝寺川の自然環境に詳しい地域の関係者に関わっていただきたいと考えている。例えば、アドバイザー会議の下部組織を設けるなどにより地域の関係者から意見をいただくことも一つと考える。

（事務局） 鳥類について、河口砂州は、治水上、切り下げ等の維持管理が必要であり、コアジサシの繁殖環境は、河川整備計画において配慮する内容となっている。自然再生計画ということではなく、今後、維持管理計画の中で河口砂州の適切な掘削方法等を確立していきたいと考えており、野鳥の会のご協力もいただきながら検討していきたい。また、ミナミアカヒレタビラについては、アドバイザー会議に諮る前には地域の有識者に意見を伺い、その内容を本会議に提供させていただく。

（D委員） 地域の子供たちが興味を持って、子供たちができるレベルで生物の保全を学習・体験する機会となることを期待している。

（事務局） 活動を継続させる観点で、地域の子供たちの力は必要だと認識している。福市箇所の水辺の楽校の活用等により、子供たちに自然環境を知っていただいて、どう生物の保全につなげていくか、地域と一緒に考えていきたい。

（E委員） 自然再生計画案で、正常流量に関する記載がない。生態系の保全等について正常流量という観点は必要ではないか。これ抜きにしては、生態系の保全は十分

議論できないと思う。

(事務局) ご指摘のとおり、検討の前提条件として正常流量の状況について追加記載する。

(B委員) 現段階で、自然再生計画の対象期間やモニタリング頻度についての方針はあるか。また、河川整備計画に自然再生計画をどのようにフィードバックするのか方針はあるのか。

(事務局) 自然再生計画の対象期間については、河川整備計画の対象期間内を想定している。また、モニタリング頻度については、今後、モニタリング項目も含めて検討を進め、次回の会議で提示することを考えている。河川整備計画へのフィードバックについては、自然再生計画で河川環境の定量的な目標を整理し、それを河川整備計画に反映させる考えである。

(F委員) 植物の重要種の保全をお願いしたい。他河川において、鳥取県レッドデータブックで絶滅危惧Ⅰ類に選定されていたフジバカマが、河川整備により絶滅した記録がある。工事の実施にあたっては、重要種の生育場所を把握するとともに、影響がある場合は移植などにより対応いただきたい。植物についても、自然環境に詳しい地域の団体が存在しており、ヒアリング等により情報を収集したうえで進めていただきたい。

(事務局) 直轄管理区間では、5年に1回植生調査を実施しており、その調査で確認した重要種は位置を記録している。工事を実施するにあたっては、これまでも重要種の確認記録がないかを確認し、確認記録がある場合は有識者の意見も踏まえ、移植等の対応をとっている。今後も自然環境に詳しい地域の団体や有識者の意見を伺いながら丁寧に進めたいと考えている。

(A委員) 自然再生計画検討にあたり用いられている魚類のデータは、5年に1回実施する河川水辺の国勢調査の40年近くある調査データであるが、調査地区は6か所しかない。実際には、流入河川や用水路などに生息する重要種もおり、そのような情報を魚類に詳しい地域の有識者に伺うべきだと思う。自然再生計画は、重要種だけを対象とするのではなく、一般的な種の変化なども地域の有識者に意見を伺った方がよい。また、資料に掲載されたミナミアカヒレタビラの写真は、本種らしくないので、種の特徴(婚姻色等)が出ている写真を地域の有識者に提供していただくなど改めることも検討いただきたい。

(事務局) ミナミアカヒレタビラの写真については、著作権の問題も踏まえながら検討したいと考えている。また、河川水辺の国勢調査でしか自然環境の情報を得られていないのが実態なので、地域の有識者とコミュニケーションを取りながら情

報を収集し、議論を進めていきたいと考えている。

(委員長) 環境については、地域住民や訪れる方々が、日野川・法勝寺川をどのような川にしたいかという視点が重要である。10年後20年後、どのような川になるの
がいいのか、合意形成を図りながら意見をまとめるのは1つの方法と思う。
環境の問題を取り扱うのは難しいが、生息・生育する生物の情報だけでなく、
地域の関係者等からも意見を伺いつつ議論することが重要である。できること
できないことがあったり、日頃接している環境が同じであっても人によって意
見が異なることもあったりするので、多くの意見を聞いて議論を進めることが
重要である。そういった意見を行政側に伝えて実現を目指すことが必要であ
り、この場がその助けになればと考える。

4. 閉会

以上